

1. 実践研究テーマ

「徳島版読解力」を生かした学力向上
「めあて」「ふりかえり」の見直し・活用による授業改善

2. 取組の内容(協力校等との連携等を含む)

- 小中の9年間・さらにその先の進路を見通した、児童生徒への指導・支援について
 - ・各校の情報交換
- 小学校・学習における「自己調整力」の育成、新聞の活用(コラムの視写)など
- 中学校・文章の読解、学習への意欲につながる問題提起、「具体」と「抽象」の往還など
- 家庭学習(自主学習)の方法、適正な課題の提示を同一歩調で
- ・特別な支援を要する生徒への適切な支援・連絡連携
- ホワイトボードを活用した、自校の課題の共有化
「ホワイトボードミーティング」
- 学期前半の課題と学期後半にむけての改善点の考察
 - ・目標や学習の流れを明示する
 - ・スモールステップによる達成感の向上
 - ・学習のガイダンスの提示
- 「徳島版読解力」を生かした学習指導の実践とふりかえり
 - ・さまざまな「学習活動」を組合せ・活用して、アウトプットを促す
 - ・適切な「ふりかえり」による、学習の定着や次時への動機付け
 - ・根拠を明確にし、目的に沿って、筋道を立てて考える・伝える力の育成
- 研究授業を通じた、教職員の学び合い
 - ・(数学)与えられた課題から規則性や考え方を見だし式であらわす
数の抽象化、計算の習熟
 - ・(体育)基礎基本の習熟と応用
タブレットを使い、チームの課題を可視化・言語化する



3. 取組の成果

○ 教職員の変容

小中それぞれの実践について情報交換し、共有し合うことにより、授業改善、教職員1人1人の資質向上につながっている。また生徒理解が進み、日常の指導に効果があった。研究テーマ(自校の課題)を明確にすることで、校内研修での協議が活発になっている。授業での「徳島版読解力」を意識した取り組みが促進された。

○ 児童生徒の変容

自分の考えをすすんで発表したり、他の人の意見を認めつつ、自分の考えを述べようとする意識や態度が育っている。課題が明確になることで、グループ内での話合いや協力・協働が円滑に行えるようになっていく。タブレット等の活用により、話合いや課題解決学習が活発になっている。

4. 2年間の実践を振り返って

- 小中の連携を深めることができ、小中の円滑な接続、児童生徒理解が促進された。
- 学習規律・学習習慣の確立に向け、学校間の情報交換や共通理解が促され、指導に効果があった。
- 「徳島版読解力」の育成に焦点をあて、学校力・授業力の一層の向上を図っていく必要がある。